

課題演習C3

星・銀河の世界

担当: 太田耕司 (もうすぐ4号館)



銀河の表面測光

M101 (おおぐま座にある渦巻銀河)



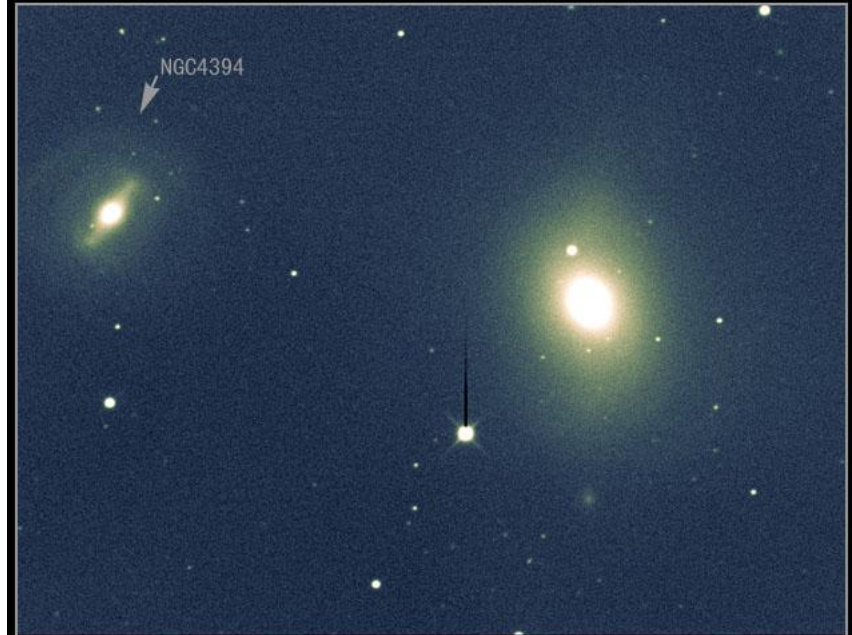
口径50cmカセグレン式反射望遠鏡 (F12), 液体窒素式冷却CCDカメラ (Astromed 3200シリーズ)
露出時間: 3分×8, フィルタ: Iバンド, 擬似カラー処理

1996年 4月13日, 25時44分 (JST)

H. Fukushima and N. Yamamoto 国立天文台 広報普及室

M85 (かみのけ座にある楕円銀河)

1997年 6月7日, 22時09分 (JST)



口径50cmカセグレン式反射望遠鏡 (F12), 液体窒素式冷却CCDカメラ (Astromed 3200シリーズ)
露出時間: 4分×5, フィルタ: Iバンド, 擬似カラー処理, 画像範囲: 12.98×9.88'

H. Fukushima, M. Abe, Y. Ishibashi

and T. Sekiguchi 国立天文台 広報普及室

面輝度分布には法則性がある！

宇宙物理屋上40cm望遠鏡

- 後期 月曜 3:30-5:30? 変更可能かも
- CCDによる観測手法等の勉強
- 観測(観測天体選びの勉強?)
 天気の良い夜 前半夜
- PCを用いたデータ処理(IRAF等を利用)
- 面輝度分布の導出
- 法則の確認
- レポート
- ただし、他に撮像したいものがあればそれも撮ってもいいです